

香川労働局発表  
令和4年4月25日

担当  
香川労働局労働基準部  
健康安全課長 角井 尚規  
安全専門官 一柳 昌仁  
電話(087)811-8920(直通)  
夜間(087)811-8926(呼出)  
<https://jsite.mhlw.go.jp/kagawa-roudoukyoku/>

## 労働災害が増加！平成20年以降最多！

～ 令和3年の労働災害発生状況を公表（4/7確定）～

香川労働局（局長 <sup>まつせ たかひろ</sup> 松瀬 貴裕）は、県下の労働災害による令和3年の死傷者数（休業4日以上）を取りまとめたので公表します。

### 【 死傷労働災害（休業4日以上）の概要と特徴 】

- 死傷者数(休業4日以上)は、1,326人(対前年比+73人、同率+5.8%)と増加しており、平成20年以降で最も多く発生。死傷者数のうち、新型コロナウイルス感染症によるものは77人。
- 業種別の発生件数(対前年比、同率)は、製造業354人(+35人、+11.0%)、商業212人(+21人、+11.0%)、保健衛生業184人(+8人、+4.5%)、運輸交通業179人(+23人、+14.7%)、建設業156人(+49人、+45.8%)の順で多く発生。
- 事故の型別では、「転倒(23.7%)」、「墜落・転落(17.0%)」、「はさまれ・巻き込まれ(13.0%)」、「動作の反動、無理な動作(12.9%)」が依然として多く、これら4つで全体の66.6%を占めている。
- 年齢別では、50歳以上の割合が49.7%となっている。また、経験期間別では、3年未満の未熟練労働者の割合が38.4%となっている。
- 災害の程度別では、休業3月未満のものが85.3%を占めている。

### 【 死亡労働災害の概要と特徴 】

- 死亡者数は11人と、前年の12人に比べ1人減少。
- 業種別では、製造業、建設業、運輸交通業でそれぞれ3人、商業、漁業でそれぞれ1人となっている。
- 事故の型別では、「墜落・転落」が4人、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故」がそれぞれ2人、「飛来・落下」、「おぼれ」、「高温・低温の物との接触」(熱中症)がそれぞれ1人となっている。
- 年齢別では、50歳以上の割合が54.5%となっている。

香川労働局では、県下5つの労働基準監督署とともに、労働災害の防止を最重点項目の1つに掲げて取り組んでいる。また、以上の状況等を踏まえ、令和4年3月3日に香川労働災害防止団体連絡協議会及び関係団体(17団体)に対し「労働災害防止に向けた緊急要請」を行った。

添付資料

「令和3年 労働災害の発生状況について（労働者死傷病報告より）」

図1-① 労働災害による死傷者数の推移（香川県）（昭和48年より）

図1-② 労働災害による死傷者数の推移（香川県）（平成15年より）

表-1 令和3年 業種別労働災害発生状況

図2 令和3年 死傷労働災害発生状況

（①業種別、②事故の型別、③起因物別、④年齢別、⑤経験期間別、⑥事業場規模別、  
⑦災害の程度別、⑧月別）

表-2 令和3年 死亡労働災害一覧表

図3 令和3年 死亡労働災害発生状況

## 令和3年 労働災害の発生状況について（労働者死傷病報告より）

### 1 死傷労働災害の発生状況（図1-①・②、表-1、図2）

- (1) 死傷者数(休業4日以上)は1,326人で、前年の1,253人に比べ73人(+5.8%)増加となっており、平成20年以降で最も多く発生している。（参考 平成19年：1,410人、平成20年：1,262人）  
また、死傷者数のうち、新型コロナウイルス感染症によるものは77人となっている。  
業種別では、製造業が最も多く354人(26.7%)、次いで商業212人(16.0%)、保健衛生業184人(13.9%)、運輸交通業179人(13.5%)、建設業156人(11.8%)の順(100人以上のみ)となっている。
- (2) 「事故の型別」では、「転倒」(314人、23.7%)、「墜落・転落」(226人、17.0%)、「はさまれ・巻き込まれ」(172人、13.0%)、「動作の反動、無理な動作」(171人、12.9%)の順に多く、前年と同順位で、これら4つで全体の66.6%(883人/1,326人)を占めている。
- (3) 「転倒」(314人)については、製造業(59人)と第三次産業(商業(81人)、保健衛生業(50人)、接客娯楽業(27人))で、転倒災害全体の69.1%(217人/314人)を占めている。発生率の高い業種は、商業38.2%(81人/212人)、保健衛生業27.2%(50人/184人)、接客娯楽業45.8%(27人/59人)であり、第三次産業で多発している。
- (4) 「墜落・転落」(226人)については、製造業(34人)、建設業(53人)、運輸交通業(60人)、商業(33人)で、墜落・転落災害全体の79.6%(180人/226人)を占めている。発生率の高い業種は、建設業34.0%(53人/156人)、運輸交通業33.5%(60人/179人)である。
- (5) 「はさまれ・巻き込まれ」(172人)については、製造業で多く発生し、はさまれ・巻き込まれ災害全体の59.9%(103人/172人)を占めている。
- (6) 「動作の反動、無理な動作」(171人)は、保健衛生業で多く発生し、動作の反動、無理な動作の災害全体の25.7%(44人/171人)を占めている。
- (7) 年齢別では、60歳以上の者が占める割合(27.5%(365人/1,326人))が最も多く、50歳以上の者が占める割合が49.7%(659人/1,326人)となっている。
- (8) 経験期間別では、1年未満の占める割合(19.2%(255人/1,326人))が最も多

く、経験期間3年未満の未熟練労働者が占める割合は38.4%(509人/1,326人)となっている。

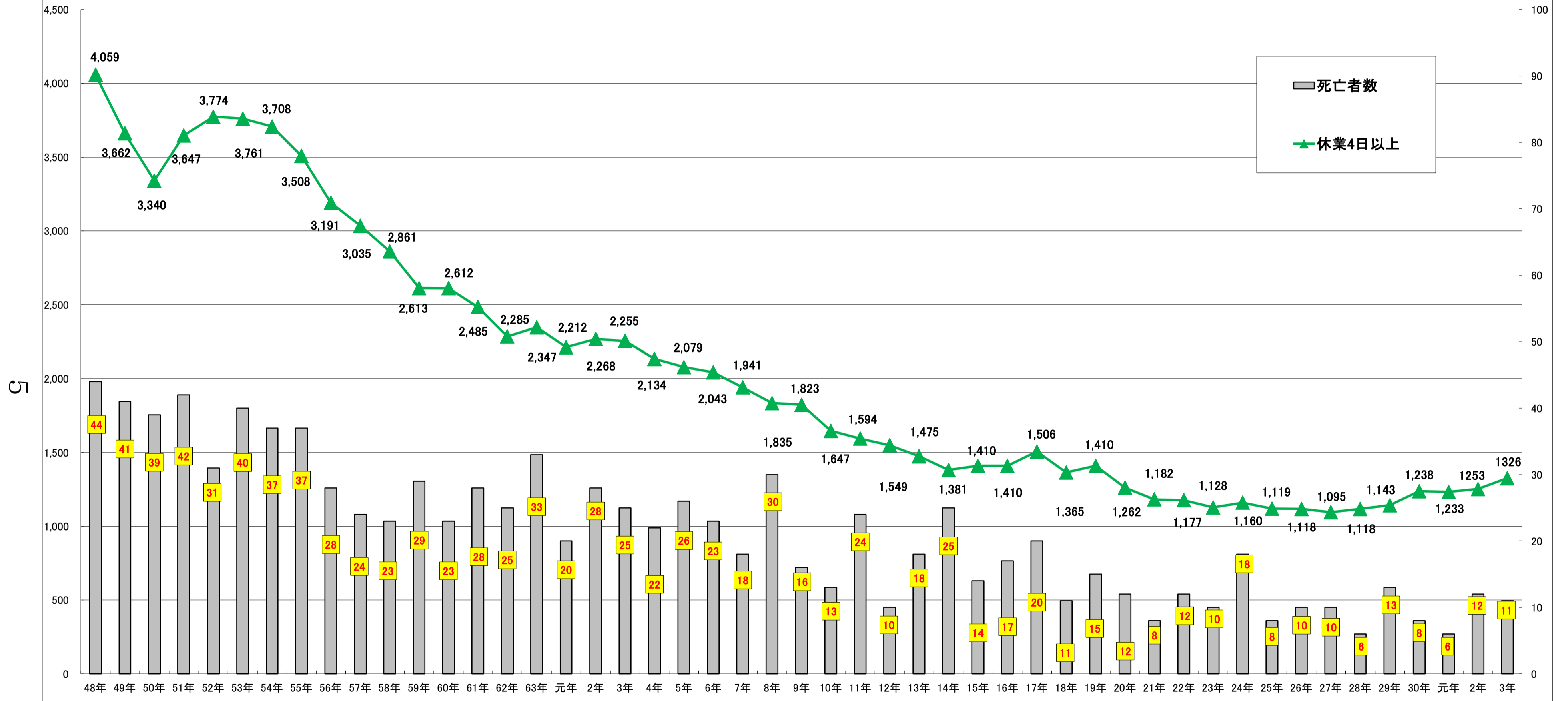
また、60歳以上の者のうち、経験期間が3年未満の未熟練労働者が占める割合は22.2%(81人/365人)となっている。

- (9) 事業場の規模別では、30人未満の事業場で、44.7%(593人/1,326人)の労働災害が発生している。また、100人以上の事業場では、22.3%(296人/1,326人)となっている。
- (10) 災害の程度別では、1月以上3月未満の占める割合(40.5%(537人/1,326人))が最も多く、3月未満のものが85.3%(1,131人/1,326人)となっている。

## 2 死亡労働災害の発生状況(図1-①・②、表1・2、図3)

- (1) 死亡者数は11人と、前年の12人に比べ1人減少。
- (2) 業種別では、製造業、建設業、運輸交通業で各3人、商業、漁業で各1人となっている。
- (3) 事故の型別では、「墜落・転落」が4人で最も多く、「はさまれ・巻き込まれ」、「交通事故」が各2人、「飛来・落下」、「おぼれ」、「高温・低温の物との接触」(熱中症)が各1人となっている。
- (4) 年齢別では、40歳代及び50歳代が各4人、60歳代が2人、30歳代が1人で、50歳以上の割合が54.5%となっている。
- (5) 事業場の規模別では、「10~29人」で5人、「1~9人」で4人、「30~49人」、「300人以上」で各1人となっている。

### 労働災害による死傷者数の推移(香川県)



労働災害による死傷者数の推移(香川県)

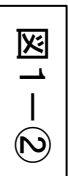
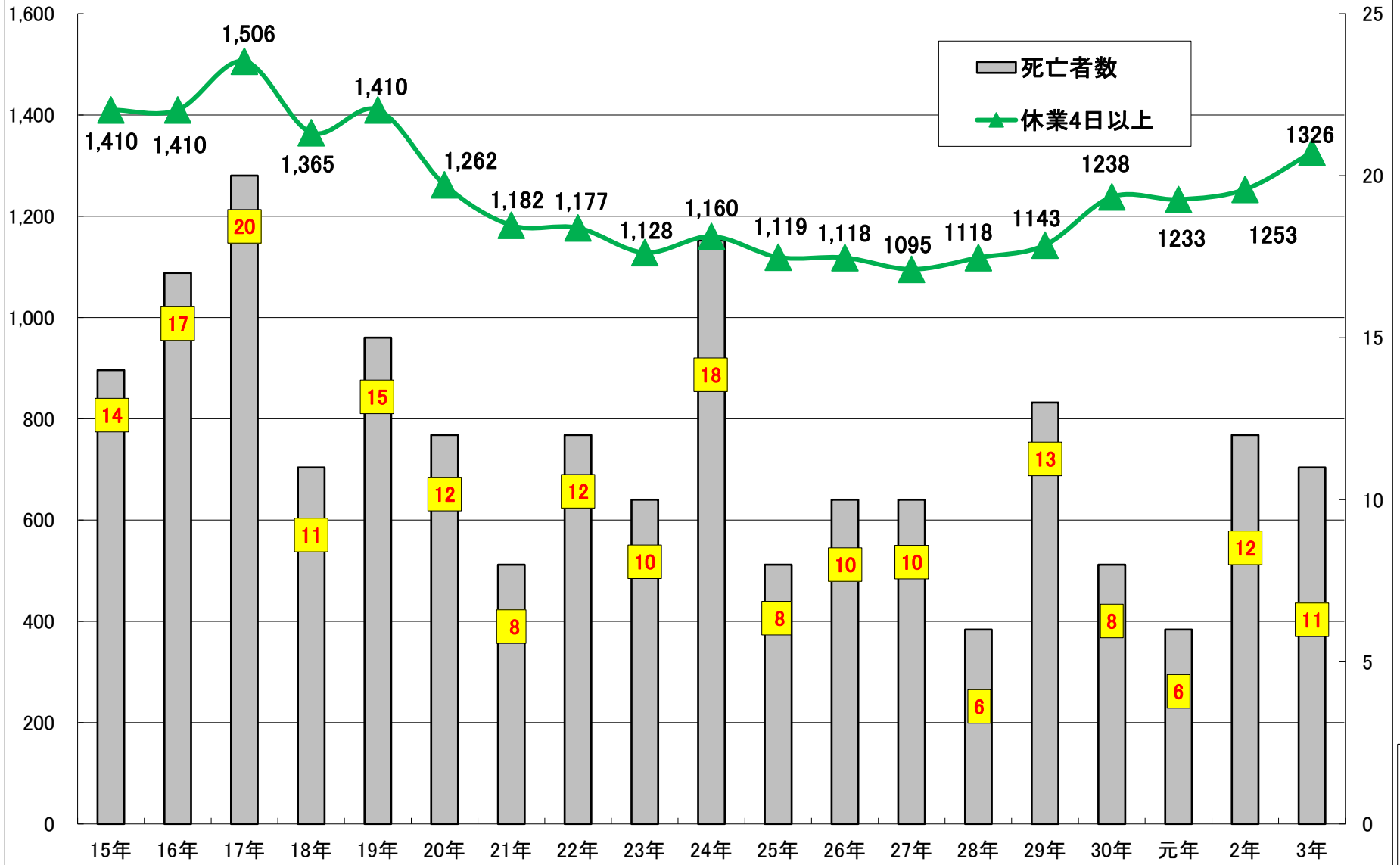


表-1

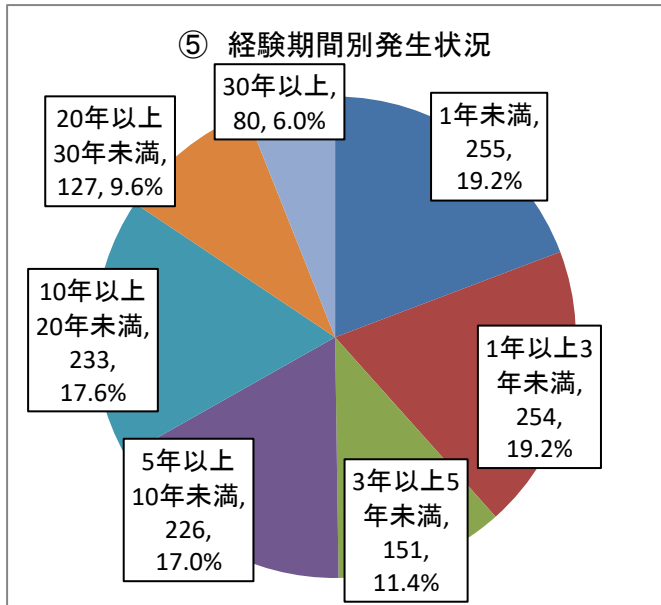
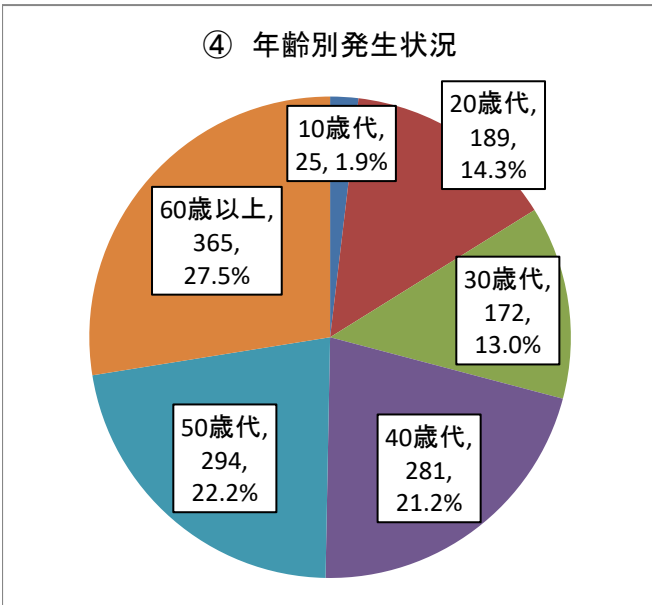
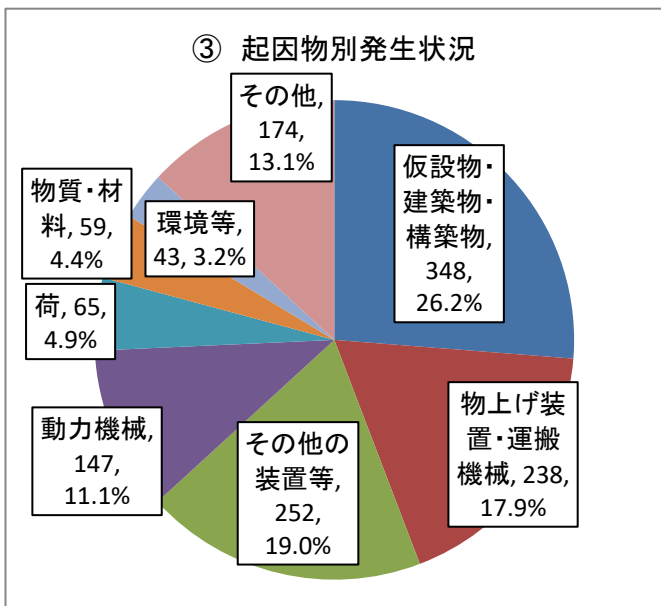
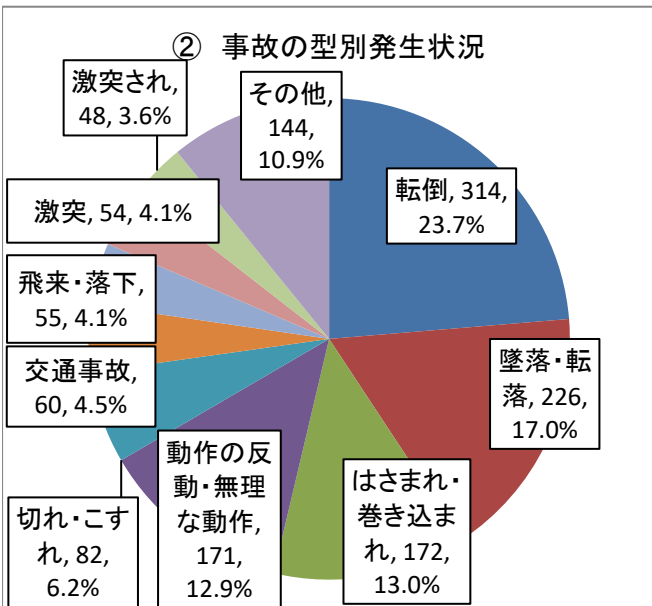
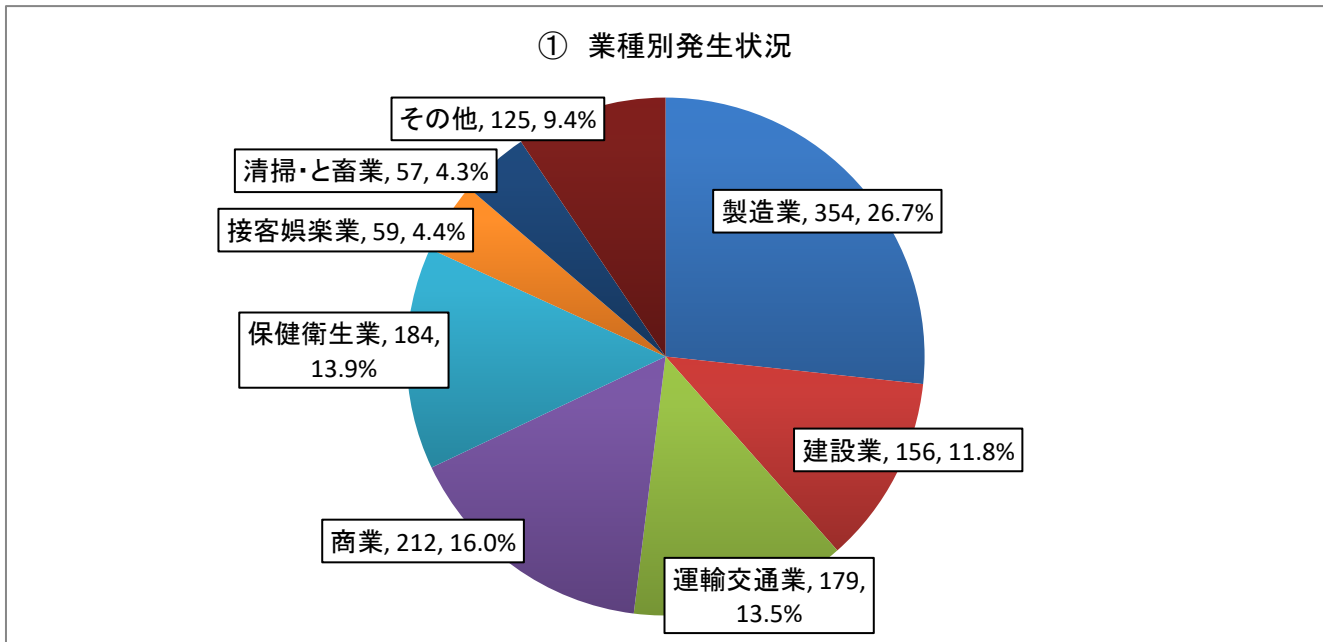
## 令和3年業種別署別労働災害発生状況

(労働者死傷病報告による休業4日以上災害) ( )内数字は死亡で内数)

香川労働局  
確定

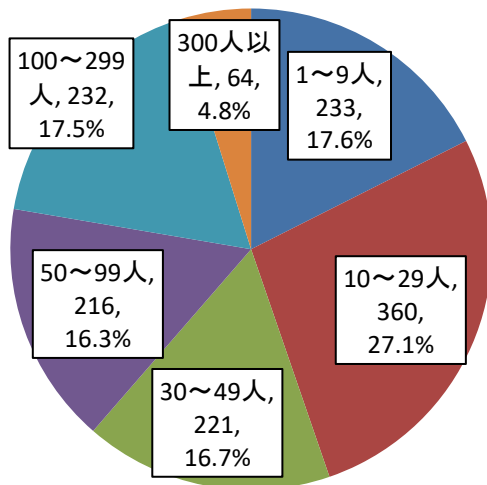
業種	局・署	香川局			過去3年間の状況		
		令和3年	前年同期	増減	平成30年	令和元年	令和2年
01	食料品製造	(0) 132	(0) 87	45	(0) 106	(1) 105	(0) 87
02	繊維工業	(0) 1	(0) 3	-2	(0) 4	(0) 2	(0) 3
03	衣服その他の繊維	(0) 1	(0) 5	-4	(0) 1	(0) 6	(0) 5
04	木材・木製品	(0) 7	(0) 7	0	(0) 13	(0) 11	(0) 7
05	家具・装備品	(0) 7	(0) 2	5	(0) 6	(0) 5	(0) 2
06	パルプ等	(0) 19	(0) 18	1	(0) 14	(0) 16	(0) 18
07	印刷・製本	(0) 10	(1) 9	1	(0) 9	(0) 6	(1) 9
08	化学工業	(1) 27	(0) 23	4	(0) 38	(0) 26	(0) 23
09	窯業土石	(0) 15	(1) 25	-10	(0) 17	(0) 12	(1) 25
10	鉄鋼業	(0) 4	(0) 4	0	(0) 0	(0) 6	(0) 4
11	非鉄金属	(0) 1	(0) 2	-1	(0) 3	(0) 0	(0) 2
12	金属製品	(0) 56	(0) 59	-3	(0) 63	(0) 75	(0) 59
13	一般機械器具	(0) 22	(0) 17	5	(0) 36	(0) 26	(0) 17
14	電気機械器具	(0) 9	(0) 6	3	(0) 7	(0) 6	(0) 6
01	造船業	(1) 20	(3) 29	-9	(0) 18	(0) 24	(3) 29
15	輸送機械製造	(1) 22	(3) 29	-7	(0) 26	(0) 27	(3) 29
16	電気・ガス	(0) 1	(0) 1	0	(0) 1	(0) 2	(0) 1
17	その他の製造	(1) 20	(0) 22	-2	(0) 24	(0) 21	(0) 22
01	製造業	(3) 354	(5) 319	35	(0) 368	(1) 352	(5) 319
02	鉱業	(0) 1	(0) 3	-2	(0) 3	(0) 4	(0) 3
01	土木工事	(2) 46	(1) 42	4	(2) 37	(0) 36	(1) 42
02	木造家屋建築	(0) 23	(0) 8	15	(0) 26	(0) 22	(0) 8
02	建築工事	(1) 76	(1) 48	28	(0) 96	(0) 81	(1) 48
03	その他の建設	(0) 34	(0) 17	17	(0) 21	(0) 20	(0) 17
03	建設業	(3) 156	(2) 107	49	(2) 154	(0) 137	(2) 107
03	道路貨物運送	(3) 156	(0) 146	10	(3) 149	(3) 144	(0) 146
04	運輸交通業	(3) 179	(0) 156	23	(3) 161	(3) 157	(0) 156
01	陸上貨物	(0) 6	(0) 8	-2	(0) 7	(0) 13	(0) 8
02	港湾運送業	(0) 9	(0) 7	2	(0) 9	(0) 12	(0) 7
05	貨物取扱	(0) 15	(0) 15	0	(0) 16	(0) 25	(0) 15
02	林業	(0) 4	(0) 9	-5	(0) 13	(0) 11	(0) 9
06	農林業	(0) 17	(0) 27	-10	(0) 27	(0) 21	(0) 27
07	畜産・水産業	(1) 8	(0) 17	-9	(0) 16	(0) 5	(0) 17
02	小売業	(1) 164	(1) 140	24	(1) 132	(1) 148	(1) 140
08	商業	(1) 212	(2) 191	21	(1) 169	(2) 195	(2) 191
11	通信業	(0) 19	(0) 21	-2	(0) 26	(0) 19	(0) 21
02	社会福祉施設	(0) 135	(0) 98	37	(0) 67	(0) 71	(0) 98
13	保健衛生業	(0) 184	(0) 176	8	(0) 99	(0) 104	(0) 176
02	飲食店	(0) 44	(1) 41	3	(0) 32	(0) 44	(1) 41
14	接客娯楽	(0) 59	(1) 67	-8	(1) 62	(0) 78	(1) 67
15	清掃・と畜	(0) 57	(0) 48	9	(0) 52	(0) 56	(0) 48
	その他の事業	(0) 65	(2) 106	-41	(1) 85	(0) 80	(2) 106
	全産業	(11) 1326	(12) 1253	73	(8) 1238	(6) 1233	(12) 1253
					確定値		

### 令和3年 死傷労働災害発生状況

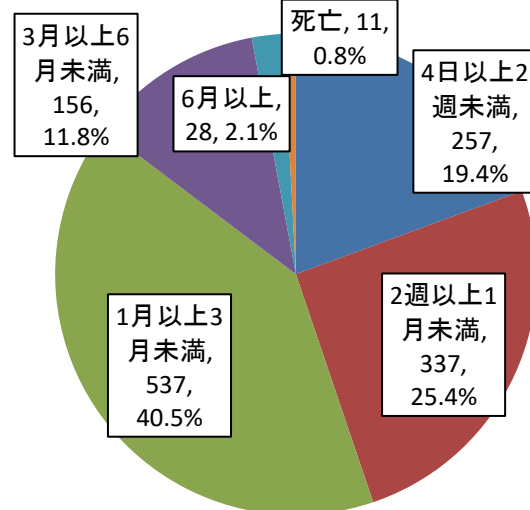




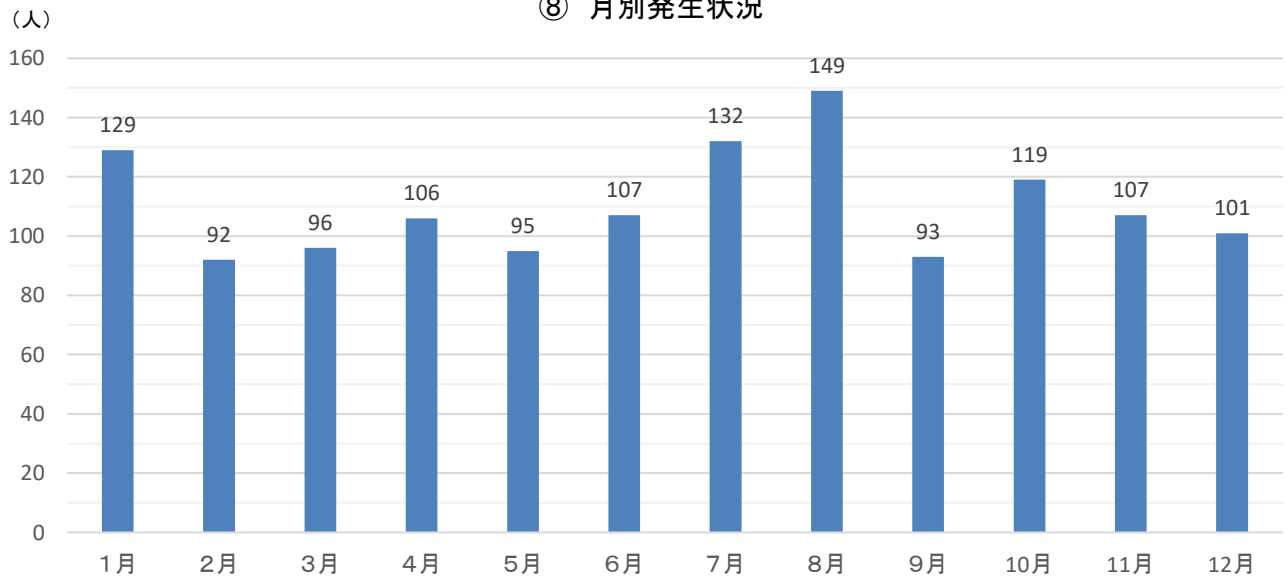
⑥ 事業場規模別発生状況



⑦ 災害の程度別発生状況



⑧ 月別発生状況



## 令和3年 死亡災害一覧表

香 川 労 働 局  
確 定

## 1 死亡災害

番号	死亡者数累計	業種	発生日	発生日時間帯	事故の型 年 齢	発 生 状 況
1	1	その他の製造業	2月	17時台	はさまれ、巻き込まれ 40歳代	工場において、衣類等を乾燥機に運ぶコンベヤーと鉄骨の間に挟まれた被災者が発見されたもの。
2	2	化学工業	4月	23時台	はさまれ、巻き込まれ 60歳代	被災者は、工場内にある破砕機の清掃を行うため、破砕機投入口であるコンベヤー側開口部より機械内に入り、稼働していた破砕機の羽根に巻き込まれたもの。
3	3	土木工事業	6月	7時台	墜落、転落 40歳代	トラック荷台にあるドラグ・ショベルを被災者が運転して地上に降ろす作業中、ドラグ・ショベルが転落し、アームの下敷きになったもの。
4	4	土木工事業	6月	9時台	飛来、落下 40歳代	被災者は地面に掘った深さ2.1メートルの掘削構内で作業中、掘削面から落下したコンクリート殻に当たったもの。
5	5	一般貨物自動車運送業	6月	19時台	墜落、転落 50歳代	被災者は配送先から会社に向かっていたところ、トラック荷台のシートがはがれたため、路肩にトラックを停車し荷台上でシートを固定していたところ、風にあおられて荷台から転落したもの。
6	6	漁業	7月	11時台	おぼれ 50歳代	漁の網入れのためもやい(船をつなぎ止める綱)でつながれた2隻の漁船が並走していた。被災者は、進行方向に向かって左側の漁船に乗って、もやいを外すため移動中、2隻の船の間から海中に墜落し溺れたもの。
7	7	造船業	8月	10時台	高温・低温の物との接触 60歳代	被災者は、定盤にある船体ブロックトップ上で、玉掛用ピースをガス溶断する作業に朝から従事していた。午前10時からの30分の休憩が終わり、作業現場に戻ってきたところ、同僚に体調不良を訴えて、腰を下ろして座っていたが、そのまま倒れこみ嘔吐したもの。
8	8	一般貨物自動車運送業	8月	18時台	交通事故 50歳代	被災者はトラックを運転し、高速道路を荷積先へ向かっていた。途中、車線変更を行ったところ、タイヤがスリップして中央分離帯へ衝突し、衝突の勢いでトラックは横転し、横転の勢いで被災者が車外に投げ出されたところに、横転したトラックが滑りながら被災者に接触したもの。
9	9	建築工事業	8月	14時台	墜落、転落 40歳代	被災者は工場屋根点検のため、スレート屋根に上り点検作業を行っていたところ、被災者の足元のスレートが割れ、高さ約9.8mから地上まで墜落したもの。
10	10	小売業	8月	14時台	墜落、転落 50歳代	被災者は営業のため得意先を訪問し、2階事務所に通じる屋外階段を上っていたところ、階段を転落して頭部を強く打ったもの。
11	11	一般貨物自動車運送業	11月	22時台	交通事故 30歳代	被災者は、高速道路をトラックで荷を運んでいた。本件災害の前に別のトラックとの接触事故が発生し、路肩にトラックを止め車外に出ていたところ、後ろから走行してきたトラックが停車していたトラックに追突し、被災者はトラックとガードロープに挟まれたもの。

# 令和3年 死亡労働災害発生状況

表1 令和3年 業種別、事故の型別死亡者数

業種	墜落、転落	転倒	激突され	飛来、落下	崩壊、倒壊	巻き込まれ、はさまれ	おぼれ	物・高温・低温との接触	交通事故	合計
製造業						2		1		3
建設業	2			1						3
運輸交通業	1								2	3
漁業								1		1
商業	1									1
接客娯楽業										0
その他の事業										0
合計	4	0	0	1	0	2	1	1	2	11

図1 平成24年～令和3年 死亡者数の推移

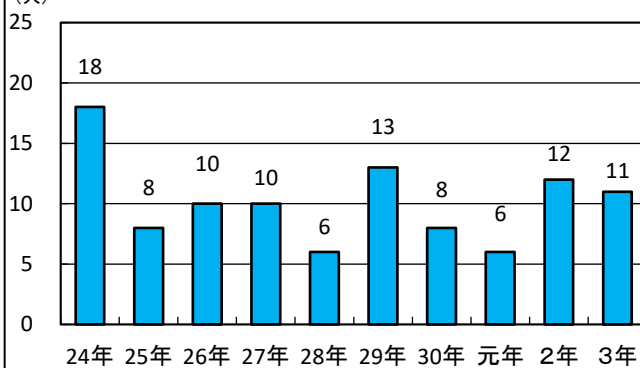


図2 業種別発生状況

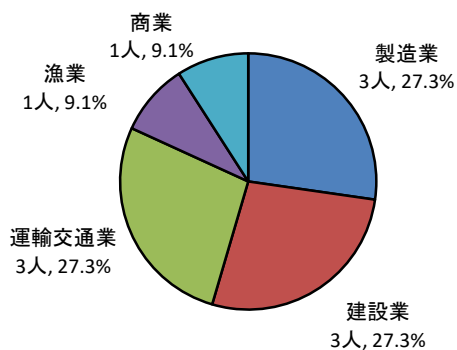


図3 事故の型別発生状況

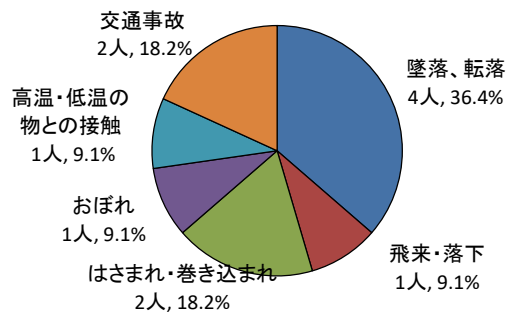


図4 起因物別発生状況

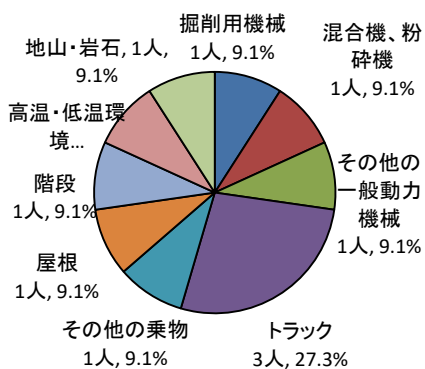


図5 年齢別発生状況

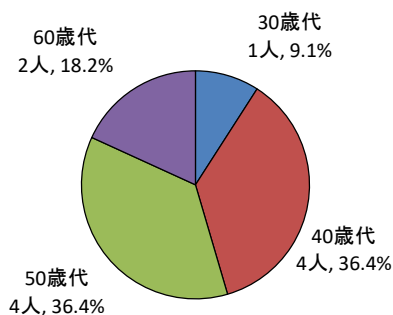


図6 事業場規模別発生状況

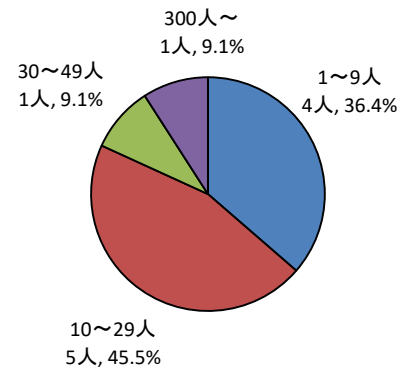


図7 令和3年 月別死亡者数

